

色水マジック

吉野川市立山瀬幼稚園（徳島県吉野川市）

[5 歳児・6年生]

保・幼・小連携「わくわくタイム」年間活動計画 7月＜色水マジック＞

(幼・小6年部分交流)(保・幼全面交流)

交流活動までの様子

幼稚園では、園庭のオシロイバナやアヤメの枯れた花を使った色水遊びが流行している。絵の具では味わえない色の透明感を味わったり、すり鉢を使って自分ですりつぶす体験を通して色の不思議さを楽しんだりしている。

6年生が休み時間に保育者にリトマス液の授業について話しに来る。

授業でリトマス試験紙はリトマスゴケという植物の色素を絞って作られていることを知ると、「リトマスゴケが植物だったら、他の植物でもできそう。やってみよう」という声が出た。6年生たちは、マイリトマス液を作るために身の回りのミカン、ブドウ、サツマイモの皮、アヤメの花びら、紫キャベツ等で試してみた。紫キャベツを使ってリトマス液を作った子どもたちは「幼稚園の子が花の色水遊びをしているから、教えてあげたい」ということになる。

交流活動

紫キャベツの色水が紫からピンクへ、また紫から緑へと変わる驚きや不思議さを体験する。「何で色が変わるの?」「きれいなあ」「どうやったん?」と6年生に質問する。6年生が説明してくれるが、目で見た刺激が強いため、話も十分に聞けず自分も早くやってみようという気持ちになる。6年生に教えてもらいながら、すり鉢にキャベツを入れ、一生懸命に色を出すことに取り組む。

「なかなか色が出ない」というA児に「水が足らんけん、入れてみな」とアドバイスをする6年生。「うわあ、出てきた。紫色だよ。これを変えたい」と生き生きとした表情で答える。「魔法の水、入れてみる?」「うん、入れる」と作業を進めていき、「うわあ、ピンクになった。いっぱい集めて持って帰るね」「友達にも見せてあげよう」と意欲的に活動に取り組む。



翌日、昨日した体験を自分で試したり水の量を加減したりして再チャレンジし、色水遊びを楽しむ。また、自分が感動したことを、今度は友達にワクワクした真剣な表情で教える。幼稚園ではレモンも用意し、試してみたり水の量を加減したりして、色水の美しさを感じる。(後日、保育園との交流でも色水マジック遊びをする)

考 察

友達と遊びの相談をし、助け合うことや互いの力を認め合うことができるようになってきた。前日6年生と体験したことを基に、年下の友達や保育所の友達に教えてあげたり言葉で意志を伝えたりするなど、相手の思いをくみ取ること、自分や友達のよさに気付くこと、人と共にする楽しさを経験することなど、『みんなでする活動』の共同性が見られるようになった。

自分が体験して気付いた自然の美しさや、6年生に認められて嬉しかったことを、3・4歳児や保育園の友達に返していく姿が見られた。「頑張ったね」「もう少し力を入れてごらん」などの言葉を使い、認め合い、励まし合う関係ができてきた。

詳細事例 <http://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/vol6/3-5.html>

みどころ

6年生が、自分たちが学習したことを幼稚園児に教えてあげたいという思いからこの活動は始まりました。日頃から自然体で交流しているからこそ、「きっと幼稚園の子が喜ぶね」「そういえば、草花で色水遊びをしていたよ」と幼児を思いやる気持ちが起こり、幼児にとってもお兄さん、お姉さんが楽しいことをしてくれるという信頼感をもっている様子が分かります。こうした交流の積み重ねにより、子どもたちは小学校への期待や憧れを膨らませると同時に、そこから更なる好奇心や探求心につながり、幼児も小学生も共に「科学する心」が育つことが期待できます。